

ペーパーアート／太田隆司
「東京雷門 西暦2007」



神の手 ● ニッポン展

匠を感じる。繊細さが見えるー

東奥日報社など4社で構成するTTHAグループは青森県立郷土館、東奥日報文化財団と共催で、ミニチュアハウスなどの作家による合同展「神の手・ニッポン展」を平成29年8月27日(日)まで青森県立郷土館で開催しています。

「神の手・ニッポン展」は日本のものづくり精神を受け継ぎながら、現代的感覚や感性で意欲的に創作活動を行ってきたアーティストたちの作品展です。高度な技術に裏打ちされた作品を通して、日本人ならではの手先の器用さ、感性の豊かさをあらためて感じていただける展覧会です。

本展では、ミニチュアハウス、ペーパーアート、立体切り絵、ビーズアート、ジオラマなど参考展示を含めて56点を展示しています。

◆作家紹介◆

◇島木英文 (ミニチュアハウスアーティスト)

建築士という経歴を生かし、日本家屋や商屋などを独自の透視図法(遠近法)を用い忠実に表現。第15回ユザワヤ創作大賞展金賞、第18回ハンズ大賞入選などの受賞歴を持つ。ミニチュア工房「カサ・デ・トンタ」主宰。

◇太田隆司 (ペーパーアーティスト)

日本大学芸術学部デザイン学科在学時より自動車のイラストを描きはじめ、卒業後、ペーパーアート作品の制作に専念。テレビ東京「TVチャンピオン」ペーパークラフト王選手権優勝など多数の受賞歴を持つ。

◇SouMa (立体切り絵アーティスト)

小学生の頃から切り絵を始める。美術・デザイン関係の学校で学んだ経験はなく自身の感性に任せ作品を創作。独自の作風は多岐にわたり従来の切り絵作家の枠を超えた創作活動を展開。作品は繋がった1枚の紙からできている。

◇金谷美帆 (ビーズアーティスト)

テレビアナウンサーを経て1998年よりビーズ創作活動を始め次々と大作を生み出す。代表作に総ビーズ織り「和衣裳」(165万余粒使用)、同六曲屏風「鎌倉」(2009年ギネス世界記録認定。206万3738粒使用)などがある。

◇山田卓司 (ジオラマアーティスト)

プロデビュー前よりタミヤ模型主催「人形改造コンテスト」の常勝メンバーとして名を馳せる。「TVチャンピオン」プロモデラー選手権5回優勝。世界的模型コンテスト「ユーロ・ミリテール」(英国)情景部門で金賞を受賞。

◇会期

2017年7月8日(土) → 8月27日(日)
※会期中無休

◇時間

9:00 → 18:00 (入館は17:30まで)

◇料金

一般・大学生 800円 小学～高校生 400円
※未就学児 無料

◇会場

青森県立郷土館 1階 特別展示室

企画展 松木満史展

平成29年5月26日（金）から6月25日（日）まで、企画展「松木満史展」を開催しました。31日間の会期中、2,976名のお客様にご来場いただきました。この展覧会では松木が20代後半から50代にかけて制作した作品を年代順に展示し、その画風の変遷を辿りました。岸田劉生に傾倒した20代の頃の暗い重厚感が、フランス滞在を経て一気に明るい色彩へと脱皮し、晩年に向かって独自の重層的な表現に収斂していくという彼の画業の展開は、ご観覧の皆様には鮮やかな印象を残したようです。

「このほかにいきるみちなし我この道を行く」と松木は言いました。彼の画業はこの信念を軸に展開していったと言えるでしょう。実現が限りなく困難と思われたフランスへの渡航に際して、費用はあくまでも自分の作品を販売して得た資金で賄い、画家としての独立を守り続けました。自らの理想に忠実であり続けた松木の人生は、周囲との軋轢や実生活の苦労を数多く伴うものだったに違いありません。しかし絵に対する強固な一途さは、彼の周りにたくさんの仲間を引き寄せました。戦後、堤川に構えたアトリエが千客万来のサロンのような場になったのはその現れでしょう。本展覧会では、こうした松木の生き方を紹介することにも重点を置きました。

関連行事として、企画展特別講座とギャラリートークを実施しました。講座では当時の新聞記事などを辿り、松木が周囲からどのように評価されてきたのかを紹介しました。青森や東京の支援者、親友の棟方志功らが、松木の画家としての力を大いに信頼していたということを会場全体で共有することができました。

ギャラリートークは高校生と一般の方対象に各1回開催しました。高校生対象の回では、青森東高校と青森南高校の生徒にご参加いただきました。今まで知らなかった地元の画家を知ることができてよかった、色彩の変化が興味深かったという感想をいただき、若い世代の方々に地元の画家をお伝えする貴重な機会となりました。一般の方対象の回では、解説終了後に「若い頃に松木の堤川のアトリエを友人数人で訪ねた」というお話を披露してくださった方もいらっしゃいました。

この日に限らず、会期中は生前の松木を知る方々からたくさんのエピソードが寄せられました。「アトリエと言っても粗末な小屋のようなもので、古い甚平を着てお酒を飲みながら絵を描いていた」、「小さい頃、たまたま電車の中で居合わせた。絵の具をじっとみていた姿に気づき、その場で自分のデッサンを描いてくれた」。松木が没してから40年以上が経ちます。時の経過とともに、ともすれば固定化されがちな芸術家のイメージ像ですが、当時を知る方々のこうしたお話は生身の松木を今に伝えてくれています。

今回の展覧会は、青森の土地と人々に残された松木の記憶を呼び起こし、過去と現在、あるいは人と人々を繋ぐ触媒になったように思います。本展覧会の開催にあたりご協力いただいた皆様、ご来場いただいたお客様に心より感謝申し上げます。

(研究員 和山大輔)



松木満史展 会場入口



多くのお客様で賑わう会場



熱心に話を聞く高校生のみなさん



一般の方々へのギャラリートークの様子

夏の自然観察会

青森県立郷土館では自然観察会を、例年夏と秋に行っています。今年度も夏の自然観察会を平成29年6月25日（日）、外ヶ浜町龍飛崎で実施しました。

外ヶ浜町龍飛崎は、津軽半島最北端であり、日本海や津軽海峡に面して、北海道を望み、変化に富んだ海岸地形、渡り鳥の中継地、海浜性植物・昆虫など、多種多様な自然環境・動植物が見られる地域で、県内でも観察会の最適地です。

今回の観察会は、地質・地形、植物、野鳥、昆虫の各分野の講師を揃えて行いました。海岸では、安山岩の溶岩、凝灰角礫岩、流紋岩を横切る玄武岩などが、また波の浸食作用で作られた奇岩など観察できました。植物ではスカシユリやニッコウキスゲが丁度満開で、他にハマベンケイソウ、ハマエンドウ、ハマフロウなども見られました。昆虫では植物の食痕や虫コブを観察し、鳥類ではミサゴ、イソヒヨドリ、ウミネコなどを見ることができました。最後に、龍飛崎灯台まで足を伸ばして水準点や文学碑等について解説し観察会を終了しました。参加者からは簡潔な解説で海岸の自然のあらましを知ることができ、参加して良かったとの感想をいただきました。参加者は、青森市、弘前市、十和田市、五戸町などから16名でした。

(学芸員 山内智)



天候にも恵まれた、今年の自然観察会

資料の梱包と運搬の日々…

青森県立郷土館では、平成29年9月から収蔵庫の改修工事を行います。収蔵庫というのは、博物館の資料を適正な環境下で保存・管理するための部屋で、当館には大小合わせて10室の収蔵庫があります。今回は、大型の収蔵庫4室と小型の収蔵庫4室について空調設備を主とした改修工事を行うため、庫内の資料をすべて庫外に待避させなければなりません。資料を庫外に出すのは、昭和48年の開館以来、初めてのことになります。資料の紛失や破損などないように、県外の博物館で行った例を参考にしながら計画を立て、準備を進めています。

これまでに行った作業は、温湿度等の影響をあまり受けない資料や図書類を、青森市内の別施設に搬出することでした。この作業は、委託した専門の業者と学芸員とで行い、資料の梱包と運搬を何度も繰り返しました。中には搬出できないほど大きなもの、非常に重いものもありましたが、待避先を変更するなどしながら対応し、作業は順調に進んでいます。

この後、7月24日（月）からは常設展示室を閉じ、残った庫内の資料を常設展示室に待避させる作業を始めます。この作業は8月末までに終えなければならないため、そのための資料確認や梱包作業を、現在、急ピッチで進めています。

(学芸主幹・副課長 島口天)

お知らせ

青森県立郷土館は、館内収蔵庫の改修工事のため平成29年7月24日（月）～平成29年8月27日（日）特別展のみ営業

平成29年8月28日（月）～平成30年3月31日（土）全館休館

とさせていただきます、平成30年4月1日の営業再開を予定しております。

展示を楽しみにされているお客様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしく願いたします。



資料搬出作業の様子

ゴールデンウィーク・国際博物館の日

青森県立郷土館では、平成29年5月3日（水）から5月7日（日）のゴールデンウィーク期間に様々なイベントをおこないました。なかでも、子どもたちが鎧を着て武者気分を味わうことができる「よろいを着て“むしゃ”になろう！」は、毎年多くのご家族で賑わう人気の企画です。戦国武将、伊達政宗モデルの鎧に身を包んだ子どもたちは、刀や鉄砲を手にポーズをとり、親御さんに撮影をしてもらっていました。今年は、弘前市や五所川原市からいらっしゃったご家族もおおり、家族の良い思い出になったのではないかと思います。

また、5月27日（土）、28日（日）は国際博物館会議（ICOM）が定める「国際博物館の日」にちなみ、観覧料を無料としました。当日は、解説員による郷土館旧館（旧青森銀行本店）部分の解説案内や、青森ねぶた正調囃子保存会顧問の太田誠氏、当館の山内智学芸員による記念講演会も行いました。ねぶた囃子の誕生秘話や、過去に大間町にあった大間北日本博物館の話など、この二日間ならではの貴重なお話をしていただきました。

（広報担当 櫻庭友輔）



鎧を着てポーズをとる参加者



ねぶた囃子の実演を交えながらの講演会

土曜セミナー

当館職員や当館ゲストキュレーター（客員学芸員）が、郷土の歴史や文化、自然などについて楽しく、わかりやすくお話する講座です。

期日	時間	場所	テーマ	担当講師
9月9日	10:30 、 12:00	県立図書館 (研修室)	縄文人の食べ物(2)	杉野森 淳子
10月14日			缶詰王国あおもり	増田 公寧
11月11日			遮光器土偶の時代 ～西目屋村の亀ヶ岡文化～	岡本 洋
12月9日			淡谷のり子と淡谷悠蔵	太田原 慶子
1月6日			七日堂祭のこと	古川 実
2月10日		県立図書館 (集会室)	青函の交通について	佐藤 良宜



県立郷土館の休館に伴い、9月以降の土曜セミナーは、開催会場が県立図書館(研修室/集会室)となり、時間も異なりますので、お間違いのないようご注意願います。

どなたでも受講でき、受講料は無料です。事前の申し込みも必要ありません。当日会場にて受付いたしますので、お好みのテーマ、日程等に合わせて直接会場にお越しください。

